

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4097900015		
法人名	医療法人 松本医院		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 朝日苑		
所在地	福岡県三潁郡大木町大藪186-1 (電話) 0944-75-8520		
自己評価作成日	平成22年5月11日	評価結果確定日	平成22年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 人権教育、啓発活動の観点から会議の重要性を上げ、毎月の各棟ミーティング、役職会議、全体会議を欠かさず行い、①人の話を心で聞く。②一方的な決めつけをしない。③互いに学び合う。これらをトレーニングしながら情報を共有していく。
2. 倫理規定としては朝日苑の品格を大切にする事。その中で①約束を守る。②危険な行動を慎む。③謙虚である。これらを旨としている。
3. 六つの業務（管理、計画作成、介護、看護、調理、防火防災）と四つの活動（地域交流、年間行事、委員会、研修計画）を柱として全職員がそれぞれ活躍の場を持ち、活達である事。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成22年5月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

麦秋の黄金色と苺や野菜園に囲まれた事業所は、明るい色調の平屋建てで、同法人の小規模多機能居宅介護と併設され、高気密・高換気システムを取り入れた造りとなっている。代表者は、地域の介護福祉への貢献を思い、地域介護の一助になればと事業所を設立し、全職員に人の尊厳、一日の大切さ、その人らしさへの支援について会議時等に話し、意識づけを行っている。全職員は利用者に寄り添い、日々の暮らしや地域行事に参加する等し、利用者が無理なく一日を楽しく過ごせるよう本人の意向や希望を尊重し、本人本位の支援とケアの質の向上に熱意を持ち、日々取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳の実行ができる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の理念を掲げ、毎朝夜勤申し送り時に唱和を行い、常日頃において理念に基づいたサービスができるように心掛けている。	事業所独自の理念があり、朝礼時に唱和し、理念の実践に向け、言葉かけ・態度・記録等、地域に密着した利用者のケアに取り組んでいるが、地域密着型の視点はない。	地域密着型サービスとして何が大切かを全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成20年7月より区長さんの協力により地元自治会に入会させて頂き、行事の案内を受け、地区のグランドゴルフ、年2回の夜回りに参加しました。そして苑の行事の夏祭りは町便りに、餅つきは小学校に案内を出して参加して頂きました。	自治会に加入している。夜回り等、地域活動に参加し、事業所主催で開催する夏祭り等に地域住民の参加がある。また、近隣の保育園、小学校、中学校と交流がある。地域住民の声かけで果物狩りをしたり、地域住民が事業所へ立ち寄りたり、野菜のおすそ分けを頂く等、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議支援の理解や方法については各方面からの来苑者への対応、電話、手紙、又朝日苑便りによって、皆様により認識を深めて頂けるよう取り組んでいる。年間を通しての行事には、ご家族や地域の方々にも案内して一緒に楽しんでいる。昨年10月にはプラスバンドのコンサートを催し、同じ地域のグループホーム様をお招きして、喜んで頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事進行を事業所側からの現状報告や行事報告、又は検討議題を中心に行ってきたが、それでは会議が一方的な流れにとどまるので現在は委員様より一言というコーナーを設け、それぞれの立場や暮らしの中から地域の情報や朝日苑の在り方に対するアドバイス等のお言葉を頂戴する事により会議が一層活発のものとなっている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の暮らしぶりや事業所の現状、行事、研修計画、自己・外部評価等を報告している。また、そこでの意見や要望は、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録を作成している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があれば市町村の担当者と連絡をとったり訪問したりしている。又地域密着型サービス事業者会やケアマネ連絡会に出席し、情報交換を行いサービスの質の向上に活かしている。	行政担当者にサービスや運営等について日頃から報告・連絡・相談し、意見や助言をもらって連携を図っている。また行政からも連絡がある等、双方向で密に連絡を取って協力体制を築き、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体能力、認知度、更には心理的な問題行動等、その方の状況は様々であります。お一人おひとりの一日の暮らしを家庭で過ごしておられた時のように身体拘束をせず安全にお守りする為には、まずその人から目を離すことのない担当者を決める事、そこから現場に立つその他の職員が連携を取りながら見守っていく事を実践している。定期的なミーティングでリスクマネジメント委員会の検討や分析を参考に反省点を見出して実践に生かしている。	身体拘束に関するマニュアルがあり、職員は内部・外部研修に参加し、身体拘束の弊害を理解している。研修記録・報告書等がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。また、地域住民へ声かけ等をお願いしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様の個別対応によって現状を把握し、毎朝の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がる言動については些細な事でも注意するように未然に防ぐ為の全員協力を求めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体会議に講師を招き、研修を行った。広域連合主催の研修や行政主催の研修に運営者、役職者が参加し、今後必要とする方に支援できるようにパンフレットも常備している。	制度について内部研修を実施し、外部研修に一部職員が参加して他の職員へ伝達研修をしている。テキスト・研修記録等がある。利用者・家族等へは、制度について特に説明をしていない。	利用者や家族へ制度について情報提供してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を提示しながら、理解されるまで解りやすい言葉で丁寧に説明を行い、納得した上で同意が得られるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で入居者様からの意見や要望を聞いたり、面会時にご家族からの意見や要望を伺い、それらを必ず会議にて検討し、運営に反映させるよう努めている。	職員は、利用者から日常的に希望を聴取し、献立や花鉢の購入等、意見を反映している。家族等の意見は、意見箱を設置し、運営推進会議や来訪時に聴取するよう努めている。また、第三者相談窓口について説明し、玄関の掲示板に掲示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職会議によって討議し、課題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使って隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行う事によりマンネリ化しないリズムミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上につなげている。	代表者はミーティング時に職員の意見を聴取し、記録の取り方や外部評価の自己評価を全職員で取り組みサービスを見直す等、意見を反映させている。また、個人面談をし、職員の希望を考慮した勤務体制を整えている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置や処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスの確保です。又全ての入居者様と全員で把握しようという考えのもと支援に差し支えないタイミングで棟内でのスタッフローテーションを行う事により和を持って協力するという気持ちが生まれてきた。退職者もなく、これからも職員一人ひとりの把握に心掛けていきたいと思う。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用にあたっては経験を最重要視している。新入社員に対しては人は目を閉じて車道を歩くとどうなるのかというブラインドテストをもとに運営者、管理者、現職員が連携をとって丁寧な指導をしていくよう努めている。職場を管理、ケアマネ、介護、看護、調理、防災防火という六つの業務に分け、それぞれの主任が統括する。その中に年間行事、地域交流、委員会活動、研修計画の担当者が関わる事によりそれぞれの活動の場で全職員が生き生きと行動できる活性化した職場となっている。	採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。代表者及び管理者は、職員がそれぞれの得意分野で能力を発揮し、生き生きと勤務できるよう勤務時間を話し合っている。また、意見を自由に表出し、自己実現ができる職場環境づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人材教育、啓発活動における会議の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。	一部職員が内部・外部研修に参加し、他の職員へ伝達研修をしている。テキスト・研修記録等がある。また、代表者や管理者は、職員に対し、利用者の尊厳を大切に誠実に対応するよう人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修活動に関して苑内研修としては月に一回の全体会議の中で演者とテーマを決め、15～20分程度の勉強会を行っている。又一方苑外研修を円滑に行う為の研修計画を作成し、年間を通じ希望と勤務に応じた研修を全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は一週間以内にレポートを書き、直近の全体会議で発表する事になっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで見学者や実習生を受け入れ、こちらからも回数多く他事業所の訪問や見学をさせて頂いているが、交流会をするまで至っていない。相互のスキルアップの為にも事業所間交流の場を設け、意見交換をしたり、共に勉強するという機会を持ちたいと思っている。		
【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安、要望等を伺い、情報収集を行っている。不安や要望に関しては、本人様のお話を傾聴し、受容する事で安心されるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族と話し合い、これまでの生活歴や家庭での状態、ご家族の思いや希望等を伺い、職員間で十分に話し合っ出来る限り思いや希望を反映させたサービス提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合、まず本人様及びご家族の意向や要望等を伺い「今一番求められるサービスは何なのか」を見極め、必要に応じて福祉用具の購入等の対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、入居者様一人ひとりの個性を引き出し支援している。園芸や思い出話を通し、入居者様と共感したり教えて頂いたり、支え合う関係が築かれている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月、手紙を請求書に同封し、入居者様の日頃の状況・状態を伝えている。又面会時にはご家族の不安・要望等を伺い、コミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方が気持ち良く来苑して頂けるように笑顔での対応を心掛け、雰囲気作りに努めている。又定期的な地域小学校との交流を重ねる事で、手紙のやりとりや気軽に来苑して頂けるようになった。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。家族と一緒に知人が訪問したり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、利用者が地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない為に座る位置に配慮し、楽しくお話しできるように職員が仲介している。又入居者様同士、声を掛け合いお互い支え合っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡したり、その中で本人様の経過を伺う等、関係が途切れないよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情、動作等から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方は、ご家族との話の中から少しでも多くの情報を収集し、出来る限り本人様の意志に添えるように努めている。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族等から情報を得たり、生活歴から本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の作成やご家族からの情報を得て、生活歴や生活環境の把握に努めている。又好きな時間に好きな番組を観たい方には、テレビを持って来て頂き、居室で自由にテレビを観て頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操やレクリエーション、希望に応じて家事の手伝いをして頂いている。又雑巾縫いやおしぼり作り、計算問題、読書等、一人ひとりが望まれる生活をして頂けるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるように努めている。又カンファレンスで本人様にとって何が必要なのか、望んでいることは何か等を検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成に努めている。	介護計画は、本人、家族の意向や意見を大切にし、全職員で話し合い、個別具体的に作成している。計画の見直しは3～6ヶ月毎に行い、状況の変化により随時見直しをしている。作成後は家族等へ報告し、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事で統一したケアを提供できるように努めている。又個人記録やケアプラン実行表を基に介護計画の見直し、評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的な健康管理により異常の早期発見に努め、必要時は医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又通院や入退院時には本人様やご家族の要望に応じて送迎等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるジャズバンド演奏会、しめ縄作り、ピアノコンサートや小学生・保育園児の慰問等、多くの方々の受け入れを行っている。又年2回の消防訓練や地域のグランドゴルフへの参加、訪問マッサージ、歯科検診ボランティア、2ヶ月に1回の理容ボランティア等の地域資源の活用もやっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体である松本医院の医師と相談し、本人様及びご家族が希望され、納得の得られた医療機関への円滑な受診ができるよう支援している。	本人や家族等が希望するかかりつけ医での受診を支援している。通院介助や情報伝達方法について家族等と話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、心身状態等の健康管理を行い、変化や疑問等は看護師や医師へ報告し、状態変化時の連絡体制もできている。必要に応じ、受診や苑での医療処置も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。又退院時はご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてご家族や本人様の希望されるケアに望めるよう医師・管理者・ケアマネジャー・職員・看護師・ご家族との話し合いを行い、方針を共有し、日々をより良く過ごして頂けるよう援助している。又ケアノートを作成し、本人様やご家族の心理の変化や医師、職員、看護師の対応を記録している。	重度化した場合や終末期のあり方について方針があり、利用開始時に家族等へ説明し、同意書を作成している。また、事業所の支援内容を説明し、本人や家族、かかりつけ医、職員等、全員で方針を共有し、随時確認しながら支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時は緊急連絡網での医師、職員間での連絡体制を行っている。消防署による救急手当てや蘇生術等の研修にも参加し、知識や技術の向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の少ない夜間を想定した避難訓練を年2回、毎回出火場所を変更して職員、入居者様と連携して行っている。又当施設のみならず、地域の公民館を一時避難場所として利用できるよう協力を得ている。その他、災害時に備えて備蓄も用意している。	マニュアルを作成し、年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。非常用食料・飲料水・備品等を事業所内に準備している。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議や自治会を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様の日々の状態観察を欠かさず行い、親しみある言葉と共に失礼な言葉掛けにならないよう心掛けている。月一回のミーティングで一人ひとりに応じた関わり方を検討している。	職員は、人権に関する内部・外部研修に参加している。研修記録等がある。また、ミーティング時に利用者一人ひとりへの言葉かけや対応を話し合い、プライバシーを損ねない支援に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で入居者様と関わりを持ち、その中で表情やしぐさ、言動から本人の思いや希望を把握できるように努めている。又できる限り本人様の希望に沿ったケアを提供できるように心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れに捉われず、職員のペースではなく、本人様のペースに合った過ごし方をして頂いている。入居者様の希望により、ホットパック、メドマ、訪問マッサージ等を利用されている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・歯磨き・整髪等の身だしなみは、出来ない部分のみお手伝いしている。理容は2ヶ月に1回、美容は毎月の訪問により希望者は髪のカットをして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやトレー拭きを手伝って頂いている。美味しく食事をとって頂くようにカレーが嫌いな方には肉じゃがにして、麻婆豆腐が嫌いな方には肉豆腐にして提供している。又誕生日には本人様が希望される食事を準備している。	職員は利用者と一緒に準備や片付けを行い、さりげなく介助を行いながら、利用者と同じ食事を同じテーブルで食べている。また、利用者の嗜好に配慮し、誕生日には本人の希望を考慮する等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1,500cc（食事別）の水分摂取を目標にし、水分チェック表を作成し、一ヶ月に一回の体重測定を行い、必要に応じ個別に栄養管理状態の管理をしている。ミキサー食の入居者様には栄養補給の為、料理にスキムミルクを入れたり、別に栄養調整食品を食べて頂いて摂取して頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶うがいや毎日義歯の消毒を行っている。歯のない方はガーゼを使用し、歯茎、舌の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人様に合わせた声掛けや援助を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄の自立にむけた支援を行っている。職員は、利用者一人ひとりのサインを把握してさり気なく誘導する等、羞恥心等に配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での毎日の排泄、食事量、水分量のチェックをしている。野菜、穀類、果物等食物繊維を多く含む食物を毎食事に取り入れ調理されており、ラジオ体操、散歩等身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴拒否や体調不良により入浴できない場合は清拭や足浴を行っている。	利用者一人ひとりの希望にあわせて、入浴支援をしている。入浴拒否の利用者へは、声かけやタイミングを計り、入浴を楽しむことができるよう工夫し、支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活習慣を崩さないようテレビ鑑賞や入浴、ベッド臥床等、本人様のペースで生活して頂けるよう支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は母体である松本医院より処方してもらい、薬局で一包装し日付、氏名、服薬時、副作用について指導をもらっている。又個人記録や業務日誌、申し送りノートでの職員間の連絡を図っている。服薬介助時には、氏名、日付、服薬時を声に出して確認し、飲み忘れや誤薬のないよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	じゃが芋の皮むき、雑巾やおしぼり縫い、洗濯物干しや洗濯物たたみ等を手伝って頂いている。又レクリエーションを行ったり、天候の良い時は園芸活動や苑外を散歩する等、気分転換に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった時には、買物支援を行ったり、季節に応じて桜見学やさげもん見学、藤見学等を行っている。	利用者一人ひとりのその日の体調や天候に配慮しながら、希望に応じて散歩や買い物等、戸外に出かけられるよう支援している。また、さげもん祭り等の季節行事や家族と共にバスハイクに出かける等している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が買物を頼まれた時は、購入したレシートをお渡しし、代金を頂いている。苑で管理している入居者様のお小遣いに関しては、ご家族の面会時に用途の説明を行い、お小遣い帳にサインを頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合には、電話を掛けたり、ご家族の方から本人様の健康状態や日常生活の様子を伺われる電話がある。又友人や知人へ手紙を書かれるので、投函の手助けを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が季節感を感じられるようフロアには、手作りカレンダーや行事の際に撮影した思い出の写真を掲示している。西側の窓は日が差すと眩しいので、フィルム製の季節の写真を貼って対応している。又建物の構造では二重ガラスの使用と高気密高換気システムにより温度、湿度、臭いのコントロールを行って快適な室内環境となっている。	共用の空間の一角に和室を設ける等して、利用者一人ひとりが思いおもいに過ごせるよう配慮している。手作りカレンダーや鯉のぼりの貼り絵を飾り、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファ、畳スペース、テーブル席があり、本人様が好みの場所で思い思いに過ごされるよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の好みの物、使い慣れた物を居室へ置いて頂いている。又ご家族との写真や自宅から持って来られた季節の花などを居室に飾っておられる。	居室は、利用者馴染みのソファや寝具、家族写真等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すり、車イス等を等を活用し、入居者様の残存能力を活かした生活が送れるように工夫している。トイレの手すりには滑り止めをつけ、ポータブルトイレは位置や向き、高さを調節し、入居者様に合った対応に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳の実行ができる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の理念を掲げ、毎朝夜勤申し送り時に唱和を行い、常日頃において理念に基づいたサービスができるように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	平成20年7月より区長さんの協力により地元の自治会に入会させて頂き、行事の案内を受け、地区のグランドゴルフ、年2回の夜回りに参加した。そして苑の行事の夏祭りは町便りに、餅つきは小学校に案内を出して参加して頂いた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議支援の理解や方法については各方面からの来苑者への対応、電話、手紙、又、朝日苑便りによって、皆様により認識を深めて頂けるよう取り組んでいる。年間を通しての行事には、ご家族や地域の方々にも安心して一緒に楽しんでいる。昨年10月にはプラスバンドのコンサートを催し、同じ地域のグループホーム様をお招きして、喜んで頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事進行を事業所側からの現状報告や行事報告、又は、検討議題を中心に行ってきたが、それでは会議が一方的な流れにとどまるので現在は委員様より一言というコーナーを設け、それぞれの立場や暮らしの中から地域の情報や朝日苑の在り方に対するアドバイス等のお言葉を頂戴する事により会議が一層活発のものとなっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターを通じて市町村の援助内容を聞いたり又、地域密着型サービス事業所会・ケアマネ連絡会に出席し情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体能力、認知度、更には心理的な問題行動等、その方の状況は様々であります。お一人おひとりの一日の暮らしを家庭で過ごしておられた時のように身体拘束をせず安全にお守りする為には、まずその人から目を離すことのない担当者を決める事、そこから現場に立つその他の職員が連携を取りながら見守っていく事を実践している。定期的なミーティングでリスクマネジメント委員会の検討や分析を参考に反省点を見出して実践に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様の個別対応によって現状を把握し、毎朝の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がる言動については些細な事でも注意するように未然に防ぐ為の全員協力を求めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体会議に講師を招き、研修を行った。広域連合主催の研修や行政主催の研修に運営者・役職者が参加し、今後必要とする方に支援できるようにパンフレットも常備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を掲示しながら、全文を口頭で説明し入居者様・ご家族に疑問や不安を尋ね納得される対応を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し入居者様・ご家族様が遠慮なく投函できるようにしている。面会時の聞き取りにも努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職会議によって討議し、課題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うべく隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行う事によりマンネリ化しないリズムミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上につなげている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置や処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスの確保です。又、全ての入居者様と全員で把握しようという考えのもと支援に差し支えないタイミングで棟内でのスタッフローテーションを行う事により和を持って協力するという気持ちが生まれてきた。退職者もなく、これからも職員一人ひとりの把握に心掛けていきたいと思う。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用にあたっては経験を最重要視している。新人社員に対しては人は目を閉じて車道を歩くとどうなるのかというブラインドテストをもとに運営者、管理者、現職員が連携をとって丁寧な指導をしていくよう努めている。職場を管理、ケアマネ、介護、看護、調理、防災防火という六つの業務に分け、それぞれの主任が統括する。その中に年間行事、地域交流、委員会活動、研修計画の担当者が関わる事によりそれぞれの活動の場で全職員が生き生きと行動できる活性化した職場となっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人材教育、啓発活動における会議の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修活動に関して苑内研修としては月に一回の全体会議の中で演者とテーマを決め、15～20分程度の勉強会を行っている。又、一方苑外研修を円滑に行うための研修計画を作成し、年間を通じ希望と勤務に応じた研修を全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は一週間以内にレポートを書き、直近の全体会議で発表する事になっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで見学者や実習生を受け入れ、こちらからも回数多く他事業所の訪問や見学をさせて頂いているが交流会をするまで至っていない。相互のスキルアップの為に事業所間交流の場を設け、意見交換をしたり、共に勉強するという機会を持ちたいと思っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との面接には管理者、ケアマネジャー2名で訪問する事により、ご本人様の様子を十分に聴く努力を行い、より一層のアセスメント情報収集ができることにより、安心した生活が送れる様に支援していく。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族の思いや希望をしっかり伺い、ご家族の協力なくして本人を支援していくことは難しい事を伝えた上で、思いや希望を反映させたサービス提供をする		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	相談を聞いた上で費用等も説明する。 「今1番に求められるサービスは何か」を見 極め、他のサービス利用のお話しも行い対応 する。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は日々の生活の中でお互いに 喜び学びあって過ごされている。 おやつ作りでは調理方法や知恵を学び、外に 出て季節を共感し四季折々の草花の名前や育 て方を教えてもらったりなど、生活をお互い に楽しく過ごせるような関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本人様がより一層楽しく過ごせる様ご家族に いろんな行事に参加して頂く為に声掛けし 又、請求書を送付する際に入居者様の担当職 員が苑での様子を書いたお手紙を同封し、共 に本人を支えていく関係に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	門徒のお寺の住職様より、月命日にお参りに 来て頂いたり、友人・知人の方が面会に來ら れたり手紙のやり取りでも交流が途切れない ように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの意向を知り理解を深め ながら孤立せず又、入居者様同士良い関係が 築けるように1枚の絵を皆様と共に塗りなが ら会話を楽しまれる様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	ご家族との連絡を行い、ご本人様の現状を 伺ったり、お見舞い・訪問に行った時には今 後の生活について、相談を受けたりなど関係 性を継続していくように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は会話する時間をもち、普段の生活や表情を見て言葉には出されない思いを把握できるように努めている。 意思疎通困難時は表情・動作やご家族との話の中から少しでも情報を得て出来るだけ本人に意志に添えるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・面会者から馴染みの暮らし方、生活環境を情報聴取する。又、入居前に当たって病院や施設から生活歴や暮らし方の情報を提供していただき会話や行動からアセスメントを作成する。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	合同でのラジオ体操やレクリエーションは行っているが、ご本人の気分や体調に応じて自由に過ぎて頂いている。又、家事の手伝い・興味のある事をして頂いたり、個別レクリエーション・リハビリを実地し、一人ひとりが毎日を楽しく過ごせる様に支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人の希望聴取に努めご家族と共に相談し介護計画を作成・実施。 3カ月・6ヶ月毎にカンファレンスを実地し評価や見直しを行い、今までのモニタリング等を基に介護作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はご本人様・ご家族様の生の声を記入している。 いつもと違う状態の変化等は申し送りで伝えている。又、個人記録を基に介護計画の見直し、評価を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的な健康管理により異常の早期発見に努め、必要時は医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、通院や入退院時には本人様やご家族の要望に応じて送迎等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のグループホームの敬老祭やグランドゴルフ大会への参加・保育園・小学校の慰問により地域の方と触れ合う機会を作っている。 ボランティアではフラダンス・和太鼓演奏や2ヶ月に1回のピアノコンサートを実地し楽しんでいただき大きな刺激となっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体である松本医院の医師と相談し、本人様及びご家族が希望され、納得の得られた医療機関への円滑な受診ができるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、心身状態等の健康管理を行い、変化や疑問等は看護師や医師へ報告し、状態変化時の連絡体制もできている。必要に応じ、受診や苑での医療処置も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は病院のソーシャルワーカー・看護師と情報交換を行ったり、面会に伺う等して状態把握に努めている。 退院時はご家族様や病院と連絡を取り合い速やかに受け入れ体制を整えるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてご家族様や本人様の希望されるケアに望めるよう医師・管理者・ケアマネージャー・職員・看護師・ご家族様との話し合いを行い、方針を共有し、日々をより良く過ごして頂けるよう援助している。又、ケアノートを作成し、本人様やご家族の心理の変化や医師、職員、看護師の対応を記録している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時は緊急連絡網での医師、職員間での連絡体制を行っている。消防署による救急手当てや蘇生術等の研修にも参加し、知識や技術の向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の少ない夜間を想定した避難訓練を年二回、毎回出火場所を変更して職員、入居者様合同で消防署と連携して行っている。又当該施設のみならず、地域の公民館を一時避難場所として利用できるような協力を得ている。その他、災害時に備えて備蓄も用意している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日入居者様の状態観察を欠かさず行い、朝・夕に申し送りを行っている。 月1回のミーティングで一人ひとりに応じた関わり方を考え検討し、常に尊敬の念をもった言葉掛けを行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の要望や願いを聞き、一人ひとりの状況や状態に合わせ、出来る範囲でご本人様に自己決定していただけるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを守り、散歩、畑の草取り、洗濯物干しやたたみ、トレー拭き等希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の有料・ボランティアによる訪問理美容や毎日の身だしなみとして洗顔・整髪・髭そり、洗顔をされない方には洗顔タオルを手渡している。又、季節や気候に合わせた衣類をご本人様と一緒に選び1日を過ごして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に材料を用意しおやつを作っている。 対面厨房での調理時に献立等の対話をし配膳時にはおしぼりたたみやテーブル拭き等手伝って頂いている。 職員と共に準備を進め全員で会話をしながら楽しく食事ができる様に支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1,500cc（食事別）の水分摂取を目標にし、水分チェック表を作成し、一ヶ月に一回の体重測定を行い、必要に応じ個別に栄養管理状態の管理をしている。ミキサー食の入居者様には栄養補給の為、料理にスキムミルクを入れたり、別に栄養調整食品を食べて頂いて摂取して頂いている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや緑茶でのうがいの声掛けを行い個人の能力に応じた支援を行っている。拒否等見られる時は時間をおいたり部屋の近くの洗面所に場所を変えたりなどの工夫をしている。義歯装着者は週1回義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により排泄パターンを把握し、失禁がないように定期的な声掛けによりトイレで排泄されないように支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での毎日の排泄・食事量・水分量のチェックをしている。野菜・穀類・果物等食物繊維を多く含む食物を毎食事に取り入れ調理されており、ラジオ体操・散歩等身体を動かす機会を多く持てるように心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様一人ひとりの希望に応じて入浴して頂いている。拒否等が見られた時は時間をおいて再度声掛けし入浴して頂いている。身体の清潔保持と心地良い入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある入居者様は、自室あるいはフロアの畳やソファ等で休息してもらっている。夜、テレビを観たい入居者様にはゆっくり観ていただき気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は母体である松本医院より処方してもらい、薬局で一包化と日付、氏名、服薬時、副作用について記入してもらい、カルテにとじている。薬剤変更時は日計表に記入し、個人記録や業務日誌、申し送りノートでの職員間の連絡を図っている。服薬介助時には、氏名、日付、服薬時を声に出して確認し、飲み忘れや誤薬のないよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の日常観察から洗濯物たたみや食後の片付け等を手伝って頂いている。その都度「ありがとう」や「助かります」等と感謝の気持ちを言葉で伝えている。又、好きな歌手や年代に応じた歌等を聴いて頂いたり近場での桜の花見や釈迦寺見学等で気分転換の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は個別で畑の草取り・水やり・収穫物や花の植え替え等の作業をしたり、散歩・ドライブ・夕涼み等希望や季節に応じた外出支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紙でお金をつくりおやつ時間に駄菓子コーナーを設け好きな品物を選んで買物を楽しんで頂いている。又、入居者様が買物を頼まれた時は、購入したレシートをお渡しし、代金を頂いている。苑で管理している入居者様のお小遣いに関しては、ご家族の面会時に用途の説明を行い、お小遣い帳にサインを頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて電話をかけたリ携帯電話を持たれている入居者様は申し出があった時は職員が対応し自由に使用していただいている。又、手紙は毎年ご家族へ暑中見舞いと年賀状を出していただくように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂ける様に家庭的な静かで落ち着いた空間作りに配慮している。又、リビング、ダイニングルーム、廊下には職員と一緒に作った貼り絵等季節に合わせた飾り付けをして楽しんで頂いている。又、建物にはすべて二重ガラスを用い高気密高換気システムにより湿度、温度、臭いなどのコントロールを行い常に快適な室内となっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロー内内の座席やリビングにソファを設置し自由に座って頂き、ゆっくりくつろげられるように配慮している。又、畳敷きのスペースを作り会話をしたり洗濯物をたたんだり等して過ごさせてある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の寝具、家具、仏壇、装飾品、家族の写真等を飾り、自宅と同様に安心して過ごされる様に工夫を行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用して起立訓練を行い残存機能を活かして頂ける事に努め、自立した生活が送れる様に支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない